

「Can-do リスト」の形での 学習到達目標の設定と授業改善 ~Part 2~

グローバル化に対応した
中学校英語指導力アップ研修
広島市教育センター
(H27. 10. 1)



初等中等教育局 国際教育課
外国語教育推進室

平木 裕



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

指導と評価の工夫

評価から指導を考える

評価したいポイント(付けたい力)が見えてくれば、授業は決まる！



付けたい力が見えないと、授業も決まらない(はず)！

Warm-up

ある学校の学習指導案で
単元の目標が次のように設
定されていました。どんな
ことに気付きますか？



Case 1 (中学2年)

- 動詞の過去形を含む英文の意味を理解する。
- 動詞の過去形を用いて英文を書く。
- 動詞の過去形に関する知識を身に付ける。



Case 1 (中学2年)

■ 動詞の過去形を含む英文の音味を

理解

- 言語材料の定着だけ？
- 言語活動をイメージ？
- CAN-DOにつながる？
- etc.

付録



Case 2 (中学1年)

- 間違ふことを恐れず，canを用いて第三者についての紹介文を書く。
- 間違ふことを恐れず，積極的にインタビュー活動を行う。
- canを用いて，自分や友達ができることを正しく書く。
- 文と文のつながりに注意して，まとまりのある文章を書く。
- まとまった文章を読んで，大切な情報を読み取る。
- canを用いた文の構造を理解する。

Case 2 (中学1年)

- 間違ふことを恐れず canを用いて第三者について
の叙述

• 何が単元ゴール？
• 形成的評価 vs. 総括的
評価
etc.

- ...文章を
書く。
- まとまった文章を読んで、大切な情報を読み取る。
- canを用いた文の構造を理解する。



Case 3 (中学1年)

- 友達にインタビューしたことを基に、絵本の形で友達の紹介文を書く。
- インタビューにおいて間違いを恐れず話す。
- 三単現を用いた文の構造を理解する。

単元で付けたい力は？

- 友達にインタビューしたことを基に、絵本の形で友達の紹介文を書く。**能力**
- インタビューにおいて間違いを恐れず話す。**関心・意欲・態度**
- 三単現を用いた文の構造を理解する。**知識・理解**



学習指導案チェックポイント

- #1 単元の**目標**は明確か？
- #2 単元の**評価規準**は妥当か？
- #3 単元を通して**身に付けさせたい力**が見えてくるか？



資料1・2へ



「手引き」について

『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』

(平成25年 文部科学省初等中等教育局)

文科省HPからダウンロード可能！

「手引き」 pp. 23-40
Q&A あり！

例えば・・・



Q3)

学習到達目標とは，全ての生徒が達成すべき目標ですか。あるいは，達成することが望ましいものにとどまる目標ですか。

例えば・・・



Q13)

学年ごとに学習到達目標を設定する際、一つの技能ごとにいくつくらいの能力記述文を作成するのが適切ですか。

例えば・・・



Q23)

従来作成している年間指導計画
と「CAN-DOリスト」の形で
設定した学習到達目標とはどの
ような関係にあるのですか。

例えば・・・



Q32)

「CAN-DOリスト」の形での
学習到達目標の評価を，学年末
の成績（評価や評定）にどう反
映させるのですか。

学習到達目標

話すこと

① ...
② ...

書くこと

① ...
② ...

聞くこと

① ...
② ...

読むこと

① ...
② ...

各単元で付けたい力 (CAN-DO)

単元 A

単元 B

本時

本時

本時

本時

本時

本時

学習到達目標

話すこと

- ① …
- ② …

書くこと

- ① …
- ② …

聞くこと

- ① …
- ② …

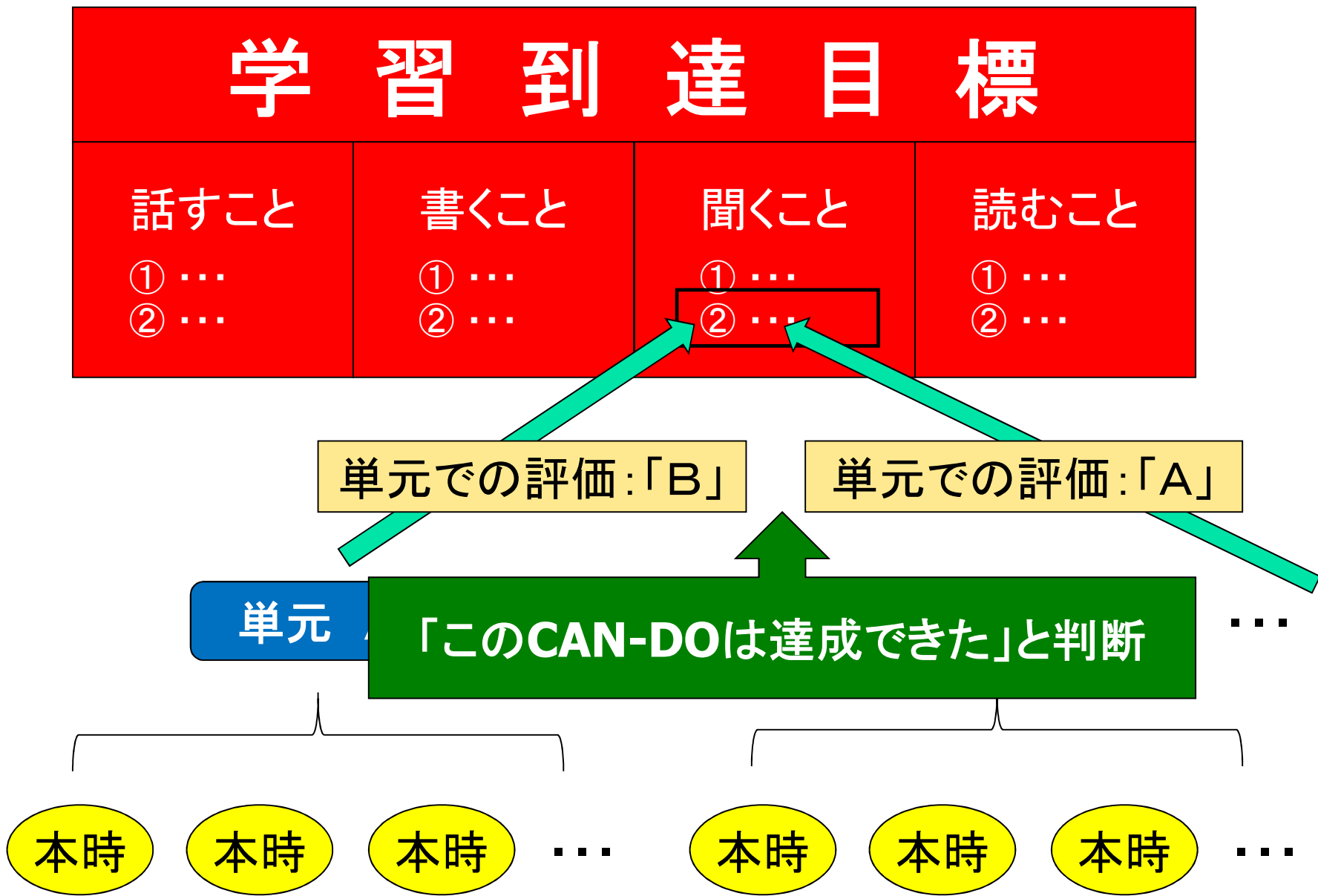
読むこと

- ① …
- ② …

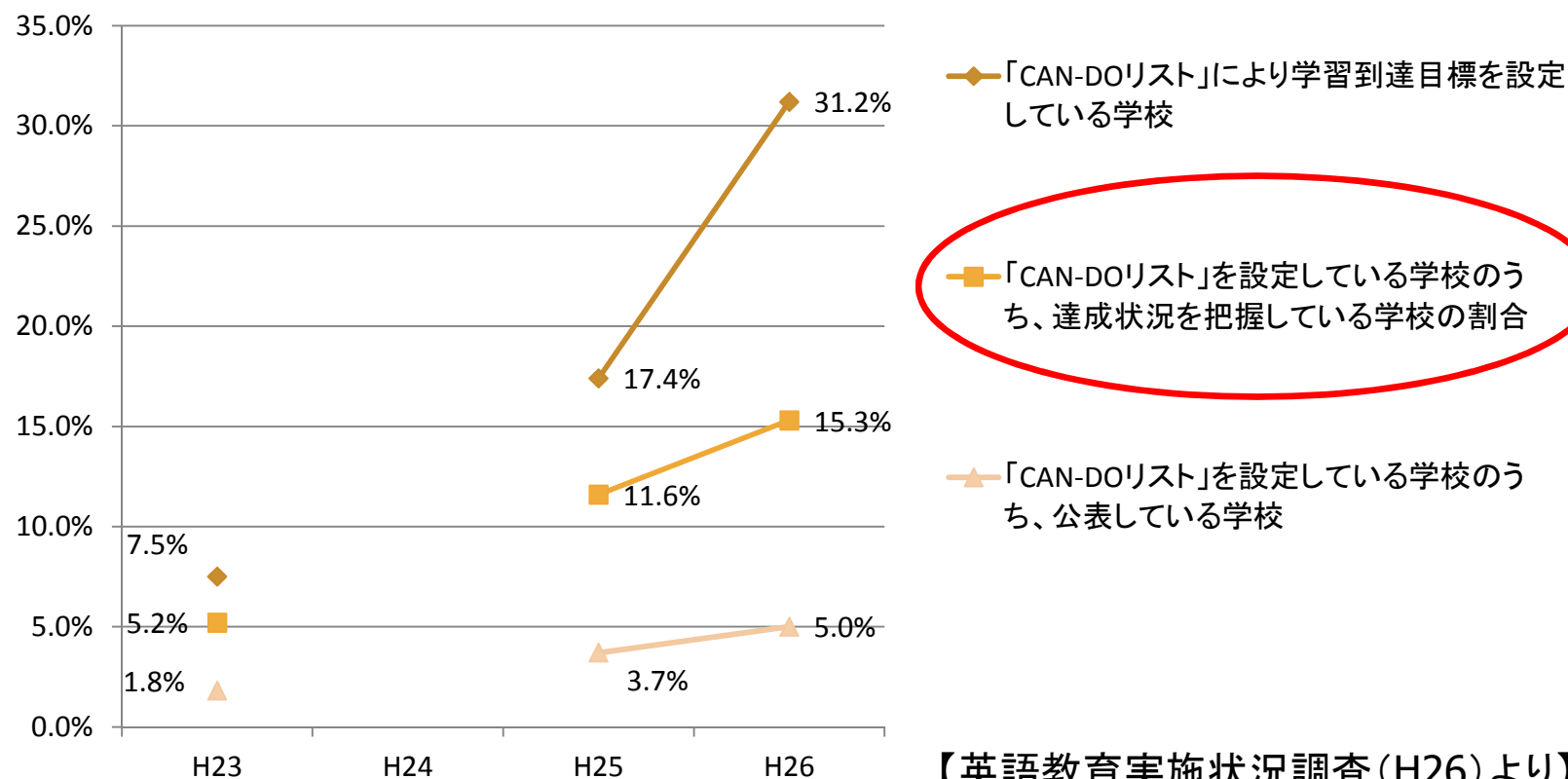
各単元で付け

力(CAN-DO)

年間指導計画



「CAN-DOリスト」による学習到達目標の 設定・公表・達成状況の把握（現状）



【英語教育実施状況調査（H26）より】



研究指定校での実践

国立教育政策研究所
教育課程研究センター
教育課程研究指定校

＝H26年度の公募課題＝

「読むこと」の領域において、
読み手として主体的に考えたり、
判断したりしながら内容を
理解する能力を育成するための
指導と評価に関する研究開発



=H26 指定校と研究テーマ=

北海道弟子屈町立弟子屈中学校

主体的に考えたり判断したりしながら内容を理解する能力の育成

～読むことの目的を明確にした言語活動を通して～

高知県大豊町立大豊町中学校

HPを!

主体的に英文を読もうとする態度の育成

～「話すこと」「書くこと」と関連付けた教材や仲間とのインタラクションを通して～

= 研究内容（一端） =

高知県大豊町立大豊町中学校

○単元観（抜粋）

内容に関わって主体的に考えたり判断したりしながら読み進める力をつけさせたい。

○単元の目標

書かれた内容から登場人物の気持ちを読み取る。

資料 3 へ

= 研究内容（一端） =

大豊町立大豊町中学校

○その単元で取り入れた言語活動

- タイトルや挿絵から内容の推測
 - セクションごとに話の展開を読み取り
 - 内容をペアでretelling（再話）
 - 内容に関する質問作り
 - 意味内容にふさわしい音読
 - 登場人物の思いをスキットで表現
- etc.

= 研究内容（一端） =

金沢大学附属中学校の場合（H25 同教材）

○その単元で取り入れた言語活動

- 本文に関する質問に答える
 - 物語のエンディングを書く
 - 天国に行ったゾウになって手紙を書く
 - 手紙を読んで，返事を書く
 - 自分の考えを書く前のマッピング
 - マッピングを見て，戦争とはどんなものか
英文で書く
- etc.

＝研究成果＝

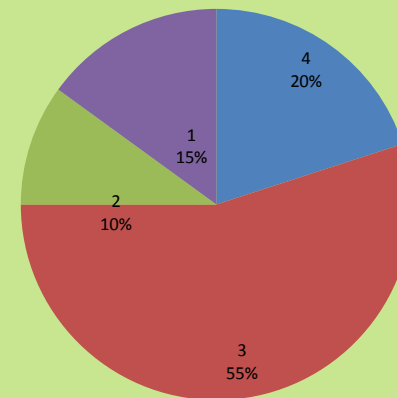
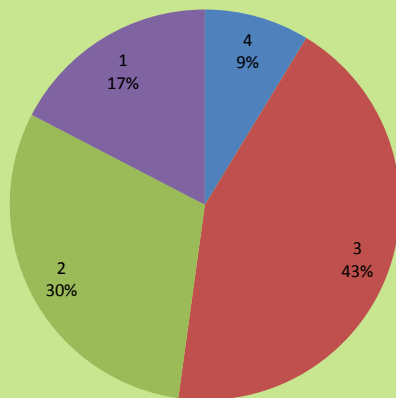
大豊町立大豊町中学校

読む活動に話す，書く活動を関連させることにより，教材や仲間とのインタラク션을起こし，より深く読もうとする態度を育てることができた。

=研究成果=

大豊町立大豊町中学校

- 読み取った内容に対して自分の意見や感想を持ち、表現することができる



4 よく当てはまる 3 だいたい当てはまる 2 あまり当てはまらない 1 全く当てはまらない

＝H27年度の公募課題（中学校）＝
「教科書等の本文で取り上げられて
いる題材や言語材料を活用し、
生徒が自分の考えや気持ちを英語
で伝え合う言語活動を中心に授業
を展開するための指導と評価に関
する研究」

鳥取県・山口県の中学校で実践中！

鳥取県倉吉市立東中学校

研究主題：

「互いに自分の考えを話して伝え合える生徒の育成を目指した指導法の工夫 ～聞いたり読んだりしたことについて話すなどの統合的な言語活動を通して～」

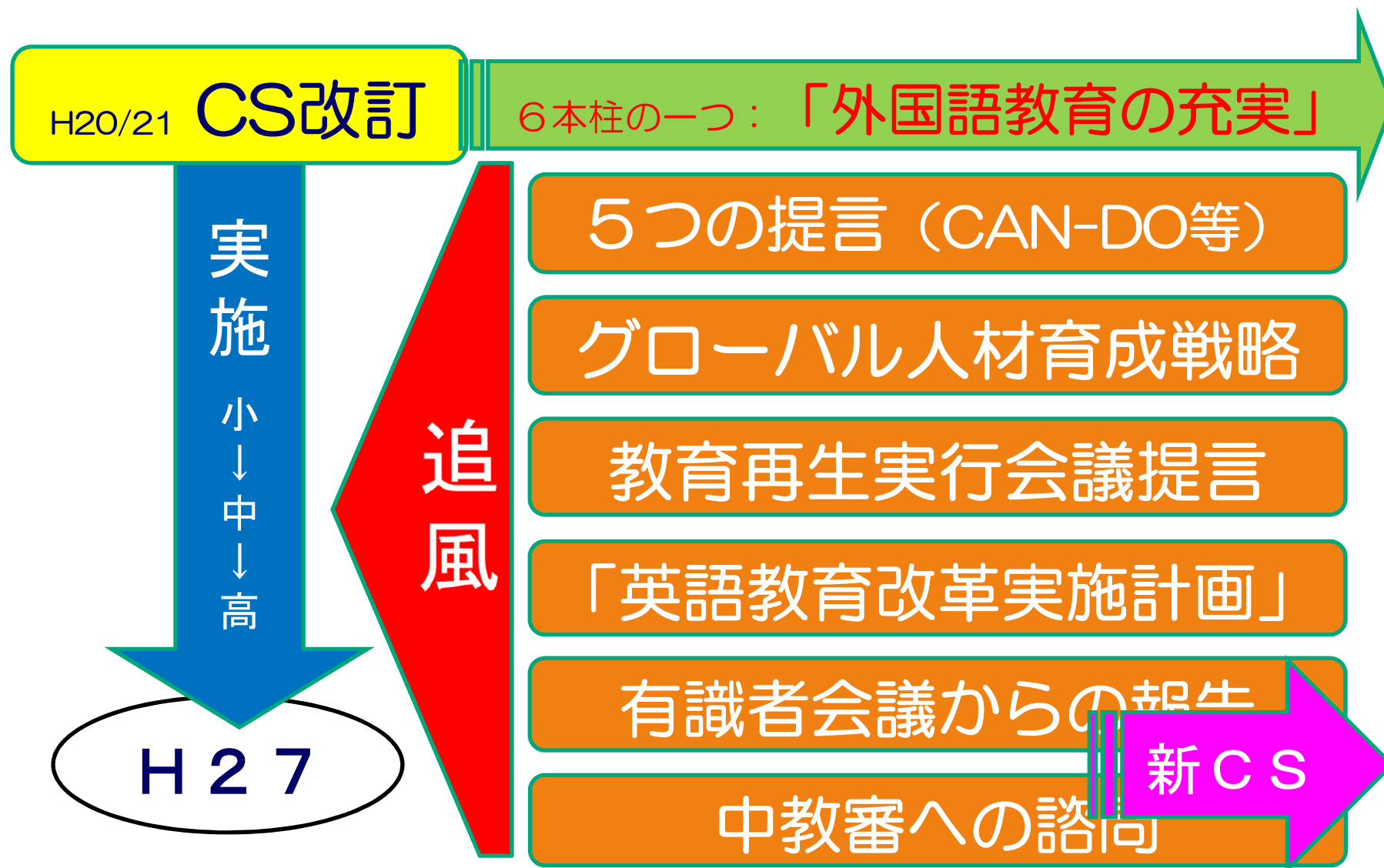
山口県山口市立大殿中学校

研究主題：

「自分の考えを適切に伝えられる
生徒の育成 ～発問の工夫や学び
合いを通して～」

次期CS改訂に向けて...

外国語教育 変革のうねり





「英語教育の在り方に関する 有識者会議」報告

文科省HPからダウンロード可能！

今後の英語教育の改善・
充実方策について 報告
～グローバル化に対応した
英語教育改革の5つの提言～



「英語教育の在り方に関する 有識者会議」報告

- 改革 1. 国が示す教育目標・内容の見直し
- 改革 2. 学校における指導と評価の改善
- 改革 3. 高等学校・大学の英語力の評価
及び入学者選抜の改善
- 改革 4. 教科書・教材の充実
- 改革 5. 学校における指導体制の充実

「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告」のポイント

○ **改革 1. 国が示す教育目標・内容の改善**

- ①小・中・高等学校の学びを円滑に接続させる
- ②「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した教育目標を示す
 - ・小学校3・4年生：活動型を開始し、音声に慣れ親しむ
 - ・小学校5・6年生：身近なことについて基本的表現によって4技能を積極的に使える英語力を身に付ける
 - ・中学校：授業は英語で行うことを基本とし、互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を重視
 - ・高等学校：授業を英語で行うことを基本とし、言語活動を高度化（幅広い話題について発表、討論、交渉等）

○ **改革 2. 学校における指導・評価**

- ・英語を使って何ができるようになるかという観点からCAN-DO形式の学習到達目標に基づく指導と学習評価

○ **改革 3. 高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善**

- ・入学者選抜における英語力の測定において、4技能のコミュニケーション能力を適切に評価
- ・4技能を測定する資格・検定試験の活用促進。学校、専門家、資格・試験団体等が参画する協議会を設置し必要な情報発信、指針づくり(学習指導要領との関係、換算方法、受験料・場所、適正・構成な実施体制等)等

○ **改革 4. 教科書・教材の改善**

- ・学習指導要領に沿った教科書検定
- ・音声や映像を含めたデジタル教科書・教材の検討

○ **改革 5. 学校における指導体制の充実**

- ・現職教員の研修(大学・外部専門機関との連携による地域の中心となる「英語教育推進リーダー」等の養成)
- ・教員養成(カリキュラムの開発・改善、「免許法認定講習」開設支援、等)、英語指導力のある教員採用
- ・外部人材の活用促進(ALT、非常勤講師、特別免許状の活用)

改革1. 国が示す教育目標・内容の改善

- 学習指導要領では、小・中・高を通して①各学校段階の学びを円滑に接続させる、②「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した教育目標(4技能に係る具体的な指標の形式の目標を含む)を示す(具体的な学習到達目標は各学校が設定)。

- 高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、生徒の英語力を把握し、きめの細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、従来から設定されている英語力の目標(学習指導要領に沿って設定される目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度から2級程度以上)を達成した中・高生の割合50%)だけでなく、高等学校段階の生徒の特性・進路等に応じた英語力、例えば、高等学校卒業段階で、英検2～準1級、TOEFL iBT60点前後以上等を設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

- ・小学校：中学年から外国語活動を開始し、音声に慣れ親しませながらコミュニケーションの素地を養うとともに、ことばへの関心を高める。高学年では身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」ことなどに加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う。学習の系統性を持たせるため教科として行うことが求められる。小学校の英語教育に係る授業時数や位置づけなどは、今後、教育課程の全体の議論の中で更に専門的に検討。
- ・中学校：身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。文法訳読に偏ることなく、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うコミュニケーション能力の養成を重視する。
- ・高等学校:幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う言語活動を豊富に体験し、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を高める。

中学校：

身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。文法訳読に偏ることなく、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うコミュニケーション能力の養成を重視する。

改革2. 学校における指導と評価の改善

- 英語学習では、失敗を恐れず、積極的に英語を使おうとする態度を育成することが重要。

中学校・高等学校では、主体的に「話す」「書く」などを通じて互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を展開することが重要。

また、生徒が英語に触れる機会を充実し、中学校の学びを高等学校へ円滑につなげる観点から、

中学校においても、生徒の理解の程度に応じて、授業は英語で行うことを基本とする。

- 各学校は、学習指導要領を踏まえながら、4技能を通じて「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、学習到達目標を設定(例:CAN-DO形式)し、指導・評価方法を改善。併せて主体的な学びにつながる「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を重視し、観点別学習状況の評価において、例えば、「英語を用いて～ができる」とする観点を「英語を用いて～しようとしている」とした評価を行うことによって、生徒自らが主体的に学ぶ意欲や態度などを含めた多面的な評価方法等を検証・活用。
- 小学校高学年で教科化する場合、適切な評価方法については先進的取組を検証し、引き続き検討。

中・高等学校：

- ・主体的に「話す」「書く」などを通じて互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を展開することが重要。
- ・生徒の理解の程度に応じて、**授業は英語で行うことを基本とする。**

改革3. 高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善

- 生徒の4技能の英語力・学習状況の調査・分析を行い、その結果を、教員の指導改善や生徒の英語力の向上に生かす。
- 入学者選抜における英語力の測定は、4技能のコミュニケーション能力が適切に評価されることが必要。
- 各大学等のアドミッション・ポリシーとの整合性を図ることを前提に、入学者選抜に、4技能を測定する資格・検定試験の更なる活用を促進。そのため、学校、テスト理論等の専門家、資格・試験関係団体等からなる協議会を設置し、
 - ・適切な資格・検定試験の情報提供、
 - ・指針づくり(学習指導要領との関係、評価の妥当性、換算方法、受験料・場所、適正/公正な実施体制等)、
 - ・試験間の検証、英語問題の調査・分析・情報提供等の取組を早急に進めることが必要。
- 「達成度テスト」の具体的な検討を行う際には、連絡協議会の取組を参考に英語の資格・検定試験の活用の在り方も含め検討。

改革4. 教科書・教材の充実

- 小学校高学年で教科化する場合、学習効果の高いICT活用も含め必要な教材等を開発・検証・活用。
- 主たる教材である教科書を通じて、説明・発表・討論等の言語活動により、思考力・判断力・表現力等が一層育成されるよう、次期学習指導要領改訂においてそのような趣旨を徹底するとともに、教科用図書検定基準の見直しに取り組む。
- 国において音声や映像を含めた「デジタル教科書・教材」の導入に向けた検討を行う。
- ICT予算に係る地方財政措置を積極的に活用し、学校の英語授業におけるICT環境を整備。

改革5. 学校における指導体制の充実

- 地域の大学・外部専門機関との連携による研修等の実施や、地域の指導的立場にある教員が英語教育担当指導主事や外部専門家等とチームを組んで指導に当たることなどにより、地域全体の指導体制を強化。地域の中心となる英語教育推進リーダー等の養成、定数措置などの支援が必要。
- 各学校では、校長のリーダーシップの下で、英語教育の学校全体の取組方針を明確にし、中核教員等を中心とした指導体制の強化に取り組むことが重要。
- 小学校の学びを中学校へ円滑に接続させるため、小中連携の効果が期待される相互乗り入れ授業、カリキュラムづくり、指導計画作成などを行う合同研修など実質的な連携促進が必要。
- 小学校の中学年では、主に学級担任が外国語指導助手(ALT)等とのチーム・ティーチングも活用しながら指導し、高学年では、学級担任が英語の指導力に関する専門性を高めて指導する、併せて専科指導を行う教員を活用することにより、専門性を一層重視した指導体制を構築。小学校教員が自信を持って専科指導に当たることが可能となるよう、「免許法認定講習」開設支援等による中学校英語免許状取得を促進。英語指導に当たる外部人材、中・高等学校英語担当教員等の活用を促進。
- 2019(平成31)年度までに、すべての小学校でALTを確保するとともに、生徒が会話、発表、討論等で実際に英語を活用する観点から中・高等学校におけるALTの活用を促進。
- 大学の教員養成におけるカリキュラムの開発・改善が必要。例えば、
 - ・小学校における英語指導に必要な基本的な英語音声学、英語指導法、チーム・ティーチングを含む模擬授業、教材研究、小・中連携に対応した演習や事例研究等の充実、
 - ・中・高等学校において授業で英語によるコミュニケーション活動を行うために必要な英語音声学、第2言語習得理論等を含めた英語学、4技能を総合的に指導するコミュニケーションの科目の充実等を、英語力・指導力を充実する観点から改善することが必要。今後、教員養成の全体の議論の中で検討。同時に、小学校の専科指導や中・高等学校の言語活動の高度化に対応した現職教員の研修を確実に実施。

小学校の学びを中学校へ円滑に接続させるため、小中連携の効果が期待される相互乗り入れ授業、カリキュラムづくり、指導計画作成などを行う合同研修など**実質的な連携**促進が必要

小学校の中学年では、主に**学級担任**が外国語指導助手（ALT）等とのチーム・ティーチングも活用しながら指導

高学年では、学級担任が英語の指導力に関する専門性を高めて指導する、併せて専科指導を行う教員を活用することにより、**専門性を一層重視した**指導体制を構築

小学校教員が自信を持って専科指導に当たることが可能となるよう、「免許法認定講習」開設支援等による中学校英語免許状取得を促進

(大学の教員養成)

小学校における英語指導に必要な基本的な英語音声学、英語指導法、チーム・ティーチングを含む模擬授業、教材研究、**小・中連携に対応した演習**や事例研究等の充実

中央教育審議会への諮問

「初等中等教育における教育課程の
基準等の在り方について」

「何を教えるか」だけでなく
「どのように学ぶか」も重視

中央教育審議会への諮問

「初等中等教育における教育課程の
基準等の在り方について」

「どのように学ぶか」

→ 「アクティブ・ラーニング」

(課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習)

中央教育審議会への諮問

「初等中等教育における教育課程の
基準等の在り方について」

さらに、学びの成果として、

「どのような力が身に付いた
か」 (学習評価の在り方)

中教審教育課程企画特別部会 「論点整理」(H27 8月)

■ 育成すべき資質・能力

「三つの柱」

- 「**何を知っているか, 何ができるか**」
(個別の知識・技能)
- 「**知っていること・できることをどう使うか**」
(思考力・判断力・表現力)
- 「**どのように社会・世界と関わり, よりよい人生を送るか**」(学びに向かう力, 人間性等)

中央教育審議会への諮問

「初等中等教育における教育課程の
基準等の在り方について」

小学校から高等学校までを通じて達成を目指すべき教育目標：

「英語を使って何ができるようになるか」という観点から，四技能に係る一貫した具体的な指標の形式で示す

小学校

中学年：外国語活動を開始し音声に慣れ親しませる。

高学年：学習の系統性を持たせる観点から教科として行い、身近で簡単なことについて互いの考えや気持ちを伝え合う能力を養う。

中学校

授業は英語で行うことを基本とし、身近な話題について互いの考えや気持ちを伝え合う能力を高める。

高等学校

幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う能力を高める。

小学校

中学年：外国語活動を開始し音声に慣れ親しませる。



○現行の5・6年生とは異なる発達段階

○現行の内容をそのまま3・4年で、
というわけではない

○教材も、*Hi, friends!* を基に新たな開発
が必要



小学校



高学年：学習の系統性を持たせる観点から教科として行い，身近で簡単なことについて互いの考えや気持ちを伝え合う能力を養う。



- 中学校入門期あたりの内容や指導の単純な「前倒し」でよい？
- 今年度から活用している「補助教材」が教材のベースに？（文字の導入など）
- 3・4年と中学校をしっかりとつなぐ役割？

「小・中・高を通じた」外国語教育

ここをどうするか？

■ 小学校 外国語活動

↓ (コミュニケーション能力の素地)

■ 中学校 外国語科

↓ (コミュニケーション能力の基礎)

■ 高等学校 外国語科

どうスタートするか？

(コミュニケーション能力)



最後に、各種情報提供を

- 「小学校外国語活動実施状況調査」
- 「英語教育実施状況調査」(小・中・高)
- 「学習指導要領実施状況調査」(中) ←公表間近
- 評価資料
- 言語活動事例集
- 授業実践映像資料(DVD)
- 英語教育推進リーダーDVD教材 etc.

文部科学省・国立教育政策
研究所のサイトをチェック！